

昨年度検討部会の振り返り（主な論点）

カテゴリ	主なご意見	ご意見に対する考え・今後の対応
居住誘導に係る実態や課題	駅周辺の高密化に向けた土地利用規制の見直し ・コンパクト化は高密化・集約化を目指すものであるが、現在の用途地域は高層マンション等を抑制するものになっている。	駅周辺の高密化、住宅団地の維持・再生について、まちづくりの方針「まちの質を高める拠点の形成」に位置づけており、具体の施策について、居住誘導区域内における誘導施策の検討において留意します。
	戸建住宅地における高齢化 ・王塚台など住宅地では高齢化が進み、利便性の面から駅周辺に高齢者が移転する状況もある。新たに入ってきた若い世代は将来を見据え階段の無い家づくりなどを行っている。	
新市街地の位置付け	・市街化調整区域における「新たな市街地」や「拠点の創出」といった表現は立適制度上の考え方からすると違和感がある。 ・新市街地創出は都市マスに明記されておりそこの整合もある。方針なので市街地や拠点は概念的なものとして捉えておいて良いと思う。	新市街地は都市マスに位置づけた方針であるため、立適制度上の考え方に留意しながら市独自に位置づけを検討します。
公共交通	公共交通の利用促進 ・車への依存が高く、車を使わない暮らし方について市民に理解してもらうことも必要	誘導施策検討の上で留意します。
	公共交通路線の維持や優先順位の検討 ・人口減、運転者不足で現状路線の維持も難しい。路線の優先順位の検討が必要 ・博多南駅へのアクセスを重点化すべき ・市役所が離れているが、公共交通ネットワークの構築においては商業・行政がまとまっていた方が良い ・交通便利性が低く困っている地域の公共交通も重要	立適で位置づけた拠点間のアクセスを軸としながら、その他の路線はデマンド交通の検討等、地域公共交通網形成計画との連携を検討します。
	春日市との交通ネットワーク ・春日市のフォレストシティを買い物で利用する人が多く交通渋滞が課題 ・広域連携軸として横の連携も記載しておく必要があるのではないか	フォレストシティは自家用車での利用を想定されたつくりで、公共交通での連携は馴染まないと考えられます。 博多南駅 - 春日原駅の連携軸を設定することが考えられます。
市街化区域外（立適の誘導区域対象外）について	市街地とのメリハリあるまちづくり ・都心に近い田舎としての魅力のアピール（観光・歴史、農業、市民農園等）や、施設整備ではなく公共交通の補完に重点を置くなど、市街地と違うやり方・メリハリのあるまちづくりが必要。 ・集落の維持と市街地への誘導ということに矛盾を感じる。具体的に誘導するのはどういう人で、そのために新たな拠点が必要なのかなど整理しておく必要がある。	各拠点におけるストーリーの中で、市街地の拠点と南部の地域拠点の考え方や目指す姿を整理しました。
	立地適正化計画の対象の明確化 ・立適は市街化区域が対象であり、その他地域の事は補足的に盛り込むスタンスの方が議論しやすい。	今年度から立適の誘導対象となる市街地について、具体の誘導区域等の検討を進めます。
住民への理解促進・周知広報	・20年後のまちづくりを考える計画であり、若い世代や子育て世代も含め、会議で検討されている内容等発信していくことが必要。 ・行政がまちづくりを全部するわけではなく、民間の動きも含めてまちづくりが広がっていくきっかけとするように立適の謳い方は重要	計画策定状況について、駅へのパネル展示等（2019.5実施）や、住民説明会の開催を予定しています。

